Metaの新世代推論モデル「Muse Wonder」および「Muse Wonder Full」の技術構造と知財実務への影響評価

Gemini3.8 Flash

発表の背景とアーキテクチャの革新性

米Metaは2026年10月12日（日本時間10月13日）、同社史上最高水準の推論性能と自律的タスク遂行能力を備えたフロンティアAIモデル群「Muse Wonder」シリーズを正式発表した[1]。同シリーズは、標準モデル「Muse Wonder」と最上位モデル「Muse Wonder Full」の2系統で展開される[1]。

今回のモデル群は、Alexandr Wang氏が主導する「Meta Superintelligence Labs」のもと、14カ月にわたるAI基盤の全面刷新を経て開発された[3]。Metaのギガワット級計算インフラである「Prometheus」データセンターを駆使し、事前学習および強化学習の双方において厳密なスケーリング則を適用して構築されている[3]。前世代モデル「Muse Spark 1.3」と比較してベースモデルの規模と基礎能力が大幅に拡張されており、事後学習（Post-training）で明示的に最適化されていない未学習の複合的タスク（Out-of-Distributionタスク）に対しても、推論時計算量（Test-Time Compute）を拡張することで高い汎化性能を発揮する[3]。

技術的な設計思想における最大の転換点は、従来の単発的な質問応答型チャットボットから、長時間の作業を持続的に遂行する「自律型エージェント」への昇華にある[1]。Muse Wonderシリーズは、内部思考プロセス（Reasoning Tokens）を生成してから最終回答を出力する思考型推論モデルであり、開発者はパラメータreasoning_effortを調整することでタスクの難易度に応じた推論深度を制御できる[4]。

この持続的エージェント遂行能力を担保する中核技術が「Active Memory」と「Active Focus」である[4]。Active Memoryは、複数セッションにまたがる長期間の対話からユーザーの意図、過去の意思決定、更新された制約条件を動的に引き継ぎ、現在の作業に必要な情報のみを自律的に想起・再構成する機構である[4]。これは単にプロンプト長を広げるアプローチとは異なり、長期的なプロジェクトにおいてコンテキストの劣化を防ぐ役割を果たす[8]。一方のActive Focusは、多段階のワークフローにおいてエラーや予期せぬ障害が発生した際、別の手法を能動的に試行して自己修正（Self-Correction）を行い、最終目標に向けて粘り強く作業を継続するアルゴリズムである[4]。同時に、外部へのデータ送信やファイル更新などの不可逆な重要操作を実行する直前に人間側へ確認を求める自律的なチェック機構を備えており、業務利用における安全弁として機能する[4]。

モデルの入力ウィンドウは両モデルともに1,048,576トークン（約100万トークン）を誇り、テキスト、画像、音声、動画、PDF文書を統合的に受け付けるネイティブ・マルチモーダル設計が採用されている[10]。一方、現時点での出力モダリティはテキスト生成に限定されており、画像や動画の生成には「Muse Image」「Muse Video」といった別系統の専用モデルが担う形をとっている[11]。

モデル仕様・提供形態および経済性の比較分析

Muse Wonderシリーズの標準版と最上位版の間には、推論能力の差異に加えて、提供チャネル、

課金構造、システム統合の自由度において明確な戦略的区別が設けられている[6]。

比較項目	**Muse Wonder**（標準モデル）	**Muse Wonder Full**（上位モデル）
公式モデル識別子	muse-wonder-1.0 [cite: 11, 13]	muse-wonder-full-1.0（内部識別子）[11]
提供プラットフォーム	Meta Model API、Muse Code、OpenRouter[1]	Muse Code（上位サブスクリプション限定）[1]
汎用APIアクセスの可否	即日利用可能（従量課金）[1]	一般開発者向け公開APIなし[11]
コンテキスト長	1,048,576トークン[11]	1,048,576トークン[11]
入力対応モダリティ	テキスト、画像、音声、動画、PDF[11]	テキスト、画像、音声、動画、PDF[11]
出力モダリティ	テキスト[10]	テキスト[10]
API入力単価（100万トークンあたり）	$4.00[11]	API非公開（月額制に内包）[11]
キャッシュ入力単価（100万トークンあたり）	$0.20[11]	API非公開[11]
API出力単価（100万トークンあたり）	$20.00[6]	API非公開[11]
Web検索グラウンディング料金	1,000回あたり$2.50[11]	サブスクリプション利用枠に依存[11]
提供プラン形態	従量課金API、Muse Code	Muse Code（Power: $50/月、Maximum: $200/月）[6]
オープンウェイト提供	なし（完全商用プロプライエタリ）[11]	なし（完全商用プロプライエタリ）[11]

標準版Muse WonderのAPI利用料金は、入力100万トークンあたり4.00ドル、出力100万トークンあたり20.00ドルに設定されており、これはAnthropicの「Claude Opus 5.5」と同額であり、OpenAIのフ

ラッグシップ「GPT-6 Astra」の約40%の水準に相当する[6]。推論APIを介してエージェント処理を運用する場合の推定コスト算出式は以下の通りとなる。

$$\text{Total Cost} = \frac{(T_{\text{uncached}} \times 4.00) + (T_{\text{cached}} \times 0.20) + (T_{\text{output}} \times 20.00)}{1,000,000} + \left(N_{\text{search}} \times \frac{2.50}{1,000} \right)$$

ここで、$T_{uncached}$は未キャッシュ入力トークン数、T_{cached}はプロンプトキャッシュ適用トークン数、T_{output}は出力トークン数、N_{search}はWeb検索グラウンディングの実行回数を表す[11]。特筆すべきはキャッシュ入力単価が0.20ドルと通常入力の95%引きに設定されている点であり、大容量の社内知財マニュアルや特許公報群を固定プロンプトとして繰り返し参照させるアーキテクチャを採用することで、運用の経済性を飛躍的に高めることができる[11]。

一方で、最上位の推論能力を備えたMuse Wonder Fullは、一般の開発者向けAPIとしては提供されておらず、Metaのターミナル型コーディング環境「Muse Code」の特定有料プラン（月額50ドルのPower Usage、または月額200ドルのMaximum Usage）契約者のみに利用が限定されている[6]。標準版APIにおいて思考深度パラメータを最大値に指定してもFull版のモデル構造へ切り替わるわけではないため、外部の知財管理システムや自社開発ツールに最上位モデルを直接組み込むことは現時点で不可能であり、システム設計上の強い制約要因となっている[11]。

ベンチマーク性能とフロンティアモデル間における競争環境

独立評価機関であるArtificial Analysisをはじめとする各種検証において、Muse Wonderシリーズはコーディング、長期エージェント実行、専門領域タスクにおいて既存のフロンティアモデルと熾烈な首位争いを繰り広げている[8]。

評価指標・ベンチマーク	**Muse Wonder Full**	**Muse Wonder**	**Claude Opus 5.5**	**GPT-6 Astra**	評価対象と測定定義
AA Intelligence Index v4.3[10]	56	52	58	53	知識・推論・開発等の10指標統合知能指数
DeepSWE v1.1 (pass@1)[8]	79.0%	78.8%	74.2%	67.4%	91リポジトリ・113課題のソフトウェア修正成功率
SWE-Marat	57.5%	53.1%	46.3%	42.5%	長期開発プ

hon (xhigh)[8]					ロジェクトにおける検証器合格率
Terminal-Bench 4.0-AA[10]	57.1%	52.0%	59.6%	59.1%	仮想端末環境におけるCLIコマンド操作達成率
Harvey LAB-AA v1.1[10]	13.1%	10.0%	4.2%	8.6%	法務文書に基づく実務成果物作成の完全適合率
Automation Bench-AA[8]	45.4%	39.1%	41.2%	41.6%	業務アプリ環境における一連のタスク完遂率（strict）
OSWorld V2.1（部分点平均）[8]	78.4%	72.6%	81.8%	75.8%	デスクトップGUI操作課題の平均達成スコア（バイナリ完遂率: Full 39.4%）[8]
MemoryBench[8]	85.5%	85.6%	81.5%	79.0%	64K〜100Kトークン会話における事実・更新情報の想起精度

ベンチマーク結果の分析から浮き彫りになるのは、ソフトウェア工学タスクにおける圧倒的な優位性である[8]。DeepSWE 1.1においてFull版は79.0%、標準版も78.8%を記録し、Claude Opus 5.5（74.2%）やGPT-6 Astra（67.4%）に大差をつけている[8]。超長期のソフトウェア開発課題を測るSWE-MarathonでもFull版が57.5%に達しており、複数ファイルにまたがるコードベースの依存関係把握、バグ箇所の特定、修正および回帰テストの反復実行において、Active Focusの自己修復能力が極めて有効に

作用していることが実証されている[4]。
知財および法務実務の観点から最も注目すべきデータは、法務エージェントの業務遂行能力を評価する「Harvey LAB-AA v1.1」の結果である[4]。同ベンチマークにおいて、Muse Wonder Fullは13.1%、標準版は10.0%を記録し、Claude Opus 5.5（4.2%）やGPT-6 Astra（8.6%）を明確に上回り、業界トップスコアを獲得した[10]。しかしながら、このスコアの背後にある定量的現実は冷徹である[10]。13.1%という数値は、案件資料に基づく複雑な法的成果物の作成において、事実誤認（ハルシネーション）がなく、指示されたすべての法的評価基準を完璧に満たして完了できたタスクが1割強にとどまることを意味している[10]。他社モデルより優れているとはいえ、約87%の法的タスクでは依然として誤謬や要件の欠落が発生しているため、自律的な業務代行には到底達しておらず、専門家による厳格なレビューが不可欠であることを定性的に示している[10]。

知的財産（知財）実務工程への波及効果と具体的活用分析

Muse Wonderシリーズが備える100万トークンの大容量コンテキスト、Active Memoryによる長期文脈保持、そして世界最高水準のコードベース理解力は、知財部門および特許事務所の業務プロセスを大きく再編する潜在力を秘めている[4]。

知財実務領域	従来の課題とボトルネック	**Muse Wonder**シリーズによる革新	実務上の留意点と限界
先行技術調査・無効資料調査	複数公報の個別読解、クレーム対比表の手作業作成負荷	100万トークンによる公報・審査経過・非特許文献の一括読解とクレームチャート自動生成[10]	構成要件の均等・設計変更余地の誤認、ハルシネーション[10]
特許明細書作成・ドラフティング	発明提案書からの技術抽出漏れ、多面的な実施例展開の作成工数	リポジトリや設計書から直接アルゴリズム・実施例・従属項を展開[4]	請求項の多義性、進歩性・サポート要件の担保不足[12]
中間処理（拒絶理由通知対応）	引用文献との差異点の見落とし、意見書・補正書作成の論理構築負担	拒絶理由通知と引例の同時対比による構成差異および阻害要因（Teaching Away）の抽出[4]	審査基準や裁判例に厳密に準拠した論理性の欠如[10]
FTO（侵害予防・クリアランス調査）	調査対象製品の仕様と競合特許群の網羅的対比における見落としリスク	Active Memoryを用いた製品仕様の保持と、大量の競合クレームに対する連続対比[4]	権利範囲の広狭解釈のブレ、文言解釈の誤謬[10]

知財契約・IPデューデリジェンス	膨大な関連契約書、クロスライセンス条項、知財譲渡制限の抽出負荷	GDP.pdf高スコアを背景とした、複数契約に跨る知財帰属条項や補償条項の抽出[10]	準拠法ごとの微妙な解釈差異、未確認リスクの看過[10]

先行技術調査および無効資料調査においては、調査対象となる特許のクレーム構造、出願時の審査包袋（ファイルラッパー）、複数の先行特許公報、さらには学術論文などの非特許文献を跨ぐ網羅的な対比が不可欠である。Muse Wonderのコンテキスト容量を活用すれば、数十件におよぶ関連公報の全文と拒絶理由通知書の変遷を一括して投入することが可能となる[10]。さらに、文書内PDF解析ベンチマーク（GDP.pdf）で33%の最高成績を記録した能力を活かし、公報の図面番号と明細書の符号説明を正確に対応付けたうえで、各構成要件に対する開示状況を整理した「クレームチャート（対比表）」のドラフトを迅速に出力できる[10]。Active Focusの自己検証機能により、存在しない段落番号を誤引用する初歩的ミスの抑制が期待される[4]。

ソフトウェアおよび先端技術分野における特許明細書のドラフティングでは、DeepSWEで79%を達成したコード解析能力が極めて強力な武器となる[8]。従来、ソフトウェア発明の出願では、エンジニアが作成したソースコードや断片的な設計書から知財担当者が発明の技術的思想を汲み取り、特許法上の「発明を実施するための形態」に耐えうる文章へ書き直す作業に膨大な時間を要していた。Muse Wonderにリポジトリ全体を読み込ませることで、システム全体のモジュール間データフロー、例外処理シーケンス、通信プロトコルの詳細なステップを抽出し、特許クレームの独立項（物および方法）から従属項（下位概念や変形例）に至るバリエーション記述を整合性を保ちながら自動的に展開させることが可能となる[4]。

中間処理における拒絶理由通知への対応においても、業務の迅速化が見込める。審査官が新規性・進歩性を否定した理由と、引用文献（引例1〜引例3）の開示内容、本願明細書のサポート範囲を同一コンテキスト内で突き合わせることで、審査官が看過している構成要件の差異を特定できる[4]。さらに、主引用例と副引用例の技術分野の違いや課題の不一致から生じる「阻害要因（Teaching Away）」、本願構成を採用したことによる「顕著な効果」に関する主張骨子を瞬時に整理し、意見書・補正書の下書きを作成するプロセスを大幅に効率化できる[4]。

侵害予防調査（クリアランス / FTO）および知財デューデリジェンスの領域では、Active Memoryの特性が活きる。製品開発が長期にわたり仕様変更を繰り返す場合でも、過去のクリアランス判断で確定した設計パラメーターや権利非侵害の論拠をセッション間で保持し、設計変更に伴って新たに抵触する恐れのある競合他社の特許クレームを再対比させることができる[4]。また、M&Aや技術アライアンス時に生じる膨大な秘密保持契約、共同開発契約、ライセンス供与契約の中から、フォアグラウンドIPの帰属条項、競業避止義務、チェンジ・オブ・コントロール条項を抽出し、事業リスクを多角的に洗い出す作業にも応用可能である[3]。

知財実務における法的リスクと統制上の課題

知財業務が取り扱うデータは、出願前の極秘技術、係争中の訴訟戦略、企業の競争力を左右するライセンス条件など、極めて秘匿性の高い情報である。Muse Wonderシリーズの導入にあたっては、その高い性能の裏に潜む情報管理上および法的なリスクを冷徹に精査しなければならない[3]。

知財担当者が最も警戒すべき運用上の罠は、Muse Codeの利用規約および初期設定に存在する「Contributor mode」である[11]。Muse Codeのサブスクリプションでは、利用枠の拡張や機能優遇と引

き換えに、ユーザーが送信したプロンプト、ソースコード、添付ファイル、およびモデルの生成結果をMetaが将来のモデル学習に利用することを許諾するContributor modeが、デフォルトで有効化（ON）されている[11]。もし研究開発部門や知財部門が、未出願の発明仕様書や機密コードをこの設定のまま投入した場合、その技術データがモデルの学習コーパスに取り込まれ、将来的に他社への出力として流出するリスクが生じる[18]。

この漏洩リスクは、単なる社内機密の漏洩にとどまらず、特許法上の「新規性喪失（公然知得・公然実施）」を招き、将来の特許権取得そのものを不可能にする破滅的な事態を引き起こしかねない。さらに、不正競争防止法上の「営業秘密」として保護されるための必須要件である秘密管理性および非公知性が失われる危険性も孕んでいる。したがって、企業内でMuse Codeを利用する場合には、アカウント設定においてContributor modeが確実に無効化（OFF）されていることを技術的・組織的に監査する厳格なガバナンスが不可欠である[24]。

また、通常版を利用する「Meta Model API」のStandardサービスにおいては、送信されたコンテンツをモデル学習に使用しない旨が規約（Commitments）上で明記されている[28]。しかしながら、他社の大手エンタープライズ向けクラウドサービスと比較した場合、データ保持と契約面で看過できない課題が存在する[19]。Meta Model APIでは、APIリクエスト時の入出力データが安全監視や不正利用検知の目的でMeta側のインフラ内に一定期間保持される仕様となっており、データを即座に物理消去する「Zero Data Retention（ZDR）」契約が標準では確立されていない[28]。さらに、日本国内や欧州（EU）の管轄下でのデータ保管を保証するデータレジデンシー契約や包括的なデータ処理契約（DPA）が整備されておらず、国際的なデータ越境移転規制への抵触懸念が残る[29]。加えて、サービスの可用性や障害対応を法的に担保するエンタープライズSLAも現時点では公表されておらず、基幹知財システムに本モデルを組み込む際はシステムの冗長化が前提となる[19]。

生成AIの活用において法務部門が重視する「著作権侵害補償（Copyright Indemnity / Copyright Shield）」についても不確実性が存在する。MicrosoftやGoogle等のエンタープライズ向け生成AIサービスでは、生成物が第三者の著作権を侵害したとして訴訟提起された場合にベンダー側が訴訟費用や損害賠償を補償する免責スキームが提供されているが、Meta Model APIやMuse Codeの現行規約には同水準の補償条項が明確に盛り込まれていない[35]。生成されたコードや特許ドラフト文章をそのまま製品や出願書類に組み込んだ場合、第三者からの権利侵害リスクは全面的に導入企業自身が負担することになる。

さらに、Harvey LABにおける完全適合率が13.1%にとどまるという事実は、ハルシネーション（幻覚）による実務破綻のリスクを強く物語っている[10]。モデルが提示した先行技術の開示内容が微妙に誤読されていた場合、実際には公知である技術を進歩性ありと誤認して出願を行い、多額の出願費用を浪費する結果になりかねない[10]。また、特許法上の記載要件（サポート要件や実施可能要件）を満たしていないにもかかわらず、表面的には流暢な明細書が生成されてしまうため、後日の無効審判や権利行使局面で特許が無効化されるという致命的な瑕疵を抱え込む危険性がある[12]。架空の判例や改訂前の古い審査基準を引用して反論論理を構築してしまうリスクも含め、AIの出力をそのまま公的機関に提出することは厳禁である[12]。

結論と実務導入に向けた戦略的提言

Metaの「Muse Wonder」および「Muse Wonder Full」は、Active Memoryによる長期セッションの文脈維持と、Active Focusによる自律的な試行錯誤・自己修復能力を備え、100万トークンの長大なコンテキスト窓と卓越したコード・文書解析能力を統合したフロンティアモデルである[4]。知財実務において、大量の公報や審査経過を対比したクレームチャートの自動作成、ソフトウェア・通信技術分野

の特許明細書ドラフティング、および中間処理における進歩性反論骨子の抽出など、従前のモデルを大幅に凌駕する作業効率化をもたらすことは疑いない[4]。
しかしながら、最上位モデルであるMuse Wonder Fullが一般APIとして公開されておらず「Muse Code」のサブスクリプション経由に限定されていること、さらにそのMuse Codeにおいて学習利用を許可する「Contributor mode」が初期設定で有効化されていること、そしてゼロデータ保持（ZDR）や著作権補償といったエンタープライズ水準の保護策が未整備である点は、知財ガバナンスにおける重大な制約である[11]。
こうした技術的特性と法的リスクを踏まえ、企業の知的財産部門および特許事務所が本モデル群を導入・活用する際には、以下の実務指針に沿って段階的かつ統制のとれた運用設計を確立することが求められる。
第1に、アカウントおよび利用経路の厳格な統制である。開発部門や知財部門がMuse Codeを導入する場合、管理部門はシステム導入ポリシーとして「Contributor mode」の常時無効化（OFF）を義務付け、未公開発明データの学習コーパスへの混入を技術的・契約的に完全に遮断しなければならない[11]。個人アカウント経由での利用は一切禁止し、組織的に一元管理されたアカウントのみを認可する運用が前提となる[19]。
第2に、取り扱うデータの機密性に応じた階層的タスク分離（データ・ティアリング）の徹底である。特許出願前の極秘技術、未発表のコアアーキテクチャ、係争中の非公開情報については、直接的なモデル投入を厳禁とし、機密要素を抽象化・マスクした中間表現に変換するか、社内APIゲートウェイを介して機密情報を置換する処理を施す必要がある[19]。一方で、すでに公開されている公開特許公報の先行技術調査、公知文献に基づく無効資料探索、あるいは公開済みの拒絶理由通知書に対する意見書案の作成など、機密漏洩リスクが極めて低い公開情報の分析タスクから段階的に適用を進めることが実務上最も安全である[19]。
第3に、プロンプトキャッシュを活用した運用コストの最適化設計である。標準版Muse Wonder API（入力4.00ドル／出力20.00ドル）を利用する際、特許庁の審査基準、社内の標準クレーム作成規程、出願書式テンプレート、頻出の法令用語集などを固定プロンプトとしてキャッシュ（0.20ドル/1Mトークン）化することにより、入力コストを大幅に削減しながら高精度な法的推論を実行させる経済的アーキテクチャを構築すべきである[11]。
第4に、有資格者による「Human-in-the-Loop」体制の義務付けである。法務エージェントベンチマークにおける完全達成率が13.1%にとどまる現実を鑑み、AIが生成したクレームドラフト、対比表、意見書の論理展開はあくまで初期的な検討材料（叩き台）と位置付けなければならない[10]。構成要件の充足性、均等論適用の可能性、サポート要件や明確性要件の充足性については、必ず弁理士や知財専門弁護士が目視で全文検証とファクトチェックを実施し、最終的な法的責任を人間が担保するワークフローを厳格に順守することが不可欠である[9]。

引用文献

1. 同社史上もっとも高性能なAIモデル「Muse Wonder」シリーズを発表, https://forest.watch.impress.co.jp/docs/news/2147475.html
2. OpenAIやAnthropicの最先端モデルを上回る高性能AI「Muse Wonder」をMetaが発表、Museシリーズ登場から半年で最先端に追いつく, https://gigazine.net/news/20261013-meta-ai-muse-wonder/
3. Introducing Muse Wonder and Muse Wonder Full: Frontier Models, https://about.fb.com/news/2026/10/introducing-muse-wonder-models/

4. Muse Wonder: A Frontier Model For Personal & Professional AI Agents, https://research.meta.ai/blog/muse-wonder
5. Meta Unveils Paid Muse Wonder AI Models in Bid to Monetize, https://finance.biggo.com/news/a65afc5f-99bb-4dc3-95a4-7c1eafec0c1d
6. Metaが「Muse Wonder」デュアルフラッグシップモデルを発表 知能, https://finance.biggo.jp/news/8397a1a9-a38b-434f-a34b-15eb39ca0415
7. Reasoning - Meta Model API, https://dev.meta.ai/docs/reasoning
8. Muse Wonderとは？Metaの新モデルの特徴と、公式ベンチマークの, https://note.com/kazu_t/n/nf214a15ace35
9. 【2026年10月最新】Muse Wonder 業務活用｜料金・提供条件, https://uravation.com/media/meta-featured-october-2026-muse-announcement-2026-10/
10. Metaの新モデル「Muse Wonder」が最上位クラスにランクイン, https://xenospectrum.com/meta-muse-wonder-claude-gpt-comparison/
11. Muse Wonder (2026): Full vs Standard, Benchmarks, API & Pricing, https://aiidelist.com/blog/muse-wonder-guide
12. https://research.meta.ai/static/muse-wonder-model-card
13. Metaの「Muse」シリーズとは？ 最新AIモデル・AIエージェント, https://note.com/npaka/n/nfe5f74b3e07c
14. Meta: Muse Wonder - API Pricing & Benchmarks - OpenRouter, https://openrouter.ai/meta/muse-wonder
15. We're excited to introduce the Muse Wonder series with ... - Facebook, https://www.facebook.com/AIatMeta/posts/were-excited-to-introduce-the-muse-wonder-series-with-muse-wonder-and-muse-wonde/1401007515532006/
16. Meta「Muse Wonder」の記憶力首位は、64K〜100Kトークン ... - note, https://note.com/ai_curator/n/na181b482f8ad
17. Muse Wonder Benchmarks, Pricing & Context Window - LLM Stats, https://llm-stats.com/models/muse-wonder
18. Meta's new Muse Wonder and Muse Wonder Full models achieve, https://venturebeat.com/technology/metas-new-muse-wonder-and-muse-wonder-full-models-achieve-frontier-performance-but-only-the-weaker-one-is-available-via-api
19. Muse Sparkとは？料金体系・Meta Model APIと情シス準備, https://admina.moneyforward.com/jp/blog/meta-muse-spark-enterprise-guide
20. Meta's Muse Wonder Costs Exactly What Opus 5.5 Costs. It Loses 9, https://dev.to/gabrielanhaia/metas-muse-wonder-costs-exactly-what-opus-55-costs-it-loses-9-of-metas-own-14-benchmarks-399a
21. Meta unveils Muse Wonder AI models to advance 'personal ... - ET CIO, https://cio.economictimes.indiatimes.com/amp/news/artificial-intelligence/meta-unveils-muse-wonder-ai-models-to-advance-personal-superintelligence-push/134906139
22. Models - Meta Model API, https://dev.meta.ai/docs/models
23. 米メタ、待望の新AIモデル「Muse Wonder」を発表 - Investing.com, https://jp.investing.com/news/stock-market-news/article-1709038
24. Meta「Muse Wonder Full」登場！記憶と実行力で進化する - note,

https://note.com/yasuhitoo/n/n857c45aeaa34
25. What Is Muse Spark 1.3, and Why Is Meta's Cheap Tier Training on, https://theaicareerlab.com/blog/meta-muse-spark-1-3-for-professionals-2026
26. Subscriptions - Meta Model API, https://dev.meta.ai/docs/muse-code/subscriptions
27. Muse Wonder: How to Use Meta's New AI for Work, https://app.therundown.ai/guides/muse-wonder-guide
28. Meta Model API Data Commitments, https://dev.meta.ai/legal/commitments
29. Muse and the EU: no launch date, no DPA, and your options, https://technspire.com/en/blog/muse-and-the-eu-no-launch-date-no-dpa-and-your-options
30. 企業向けAI事業「Meta Enterprise Platform」を発表 MongoDB前, https://www.zaikei.co.jp/article/20261001/871820.html
31. LLMs & Privacy - Kagi's Docs, https://help.kagi.com/kagi/ai/llms-privacy.html
32. AI Providers: Models, Privacy and Uptime - TrustedRouter, https://trustedrouter.com/providers
33. Muse Spark 1.2 Contributor API: Performance, limits and risks, https://gingerlabs.ai/blog/muse-spark-1-2-contributor-api-performance-limits-and-risks
34. Muse Spark 1.1: What Changed for AI Coding - Verdent Guides, https://www.verdent.ai/guides/agents/muse-spark-1-1-ai-coding
35. Meta Model API Terms of Service, https://dev.meta.ai/legal/terms-of-service
36. How to Use Krea 2 AI Image Generator: 12 Steps [2026] - Tech Insider, https://tech-insider.org/how-to-use-krea-2-ai-image-generator-2026/
37. Can you use nano banana images commercialy? : r/GeminiAI - Reddit, https://www.reddit.com/r/GeminiAI/comments/1pew8cr/can_you_use_nano_banana_images_commercialy/
38. AUTO vs Muse Wonder Full | CometAPI, https://www.cometapi.com/pt/compare/auto-vs-muse-wonder-full/